

## 入谷朝顔まつり：日本のアサガオについて

アサガオの日本語名の由来は、早朝に花を咲かせるところから来ています。日本におけるアサガオの歴史は 1000 年以上に及びます。8 世紀に国内に持ち込まれた可能性が高く、そのころ中国大陸からは、遣唐使があらゆる種類の知識や品物、種子を輸入していました。当時、アサガオは主に医療目的で栽培されており、その種子を粉にしたものが便秘薬として摂取されていましたが、種子は大変高価なものでした。

アサガオの装飾的な性質が広く認知されるようになったのは、江戸時代(1603 年～1868 年)になってからでした。江戸(今日の東京)では、上野のすぐ南にある御徒町地区の下級侍が、アサガオを他に先駆けて栽培していました。入谷の植物育種家の助けを借りることもしばしばありました。1867 年、侍が率いる徳川幕府が倒れ、御徒町の武士は、侍としての働き口を失い、より切迫した問題に専念する必要が急に出てきました。それ以降、園芸家たちがアサガオの栽培を一手に担うようになりました。

今日も、日本でアサガオは人気の花であり続けています。多くの小学校でカリキュラムの一部になったのが理由の一つです。1 年生のほとんどは、入学後の数ヶ月をかけて自分のアサガオを育て、夏休みには、水やりのために自宅に持ち帰ります。また多くの学校では、児童が観察日記を記し、花の姿の変化を書き留めることを生徒たちに学習させています。